

世界史〔東京大学 2006年前期 第1問より〕

今回は東京大学の問題をピックアップしてみました。 あらためて問題を確認します。

近代以降のヨーロッパでは主権国家が誕生し、民主主義が成長した反面、各地で戦争が多発するという一見矛盾した傾向が見られた。それは、国内社会の民主化が国民意識の高揚をもたらし、対外戦争を支える国内的基盤を強化したためであった。他方、国際法を制定したり、国際機関を設立することによって戦争の勃発を防ぐ努力もなされた。

このように戦争を助長したり、あるいは戦争を抑制したりする傾向が、三十年戦争、フランス革命戦争、第一次世界大戦という3つの時期にどのように現れたのかについて、解答欄(イ)に17行(510字)以内で説明しなさい。その際に、以下の8つの語句を必ず一度は用い、その語句の部分に下線を付しなさい。

ウェストファリア条約 『戦争と平和の法』

ナショナリズム

国際連盟

総力戦

平和に関する布告

十四ヵ条

徴兵制

<問われていることを確認>

問題文をよく見ていきます。論述問題、特に東京 大学のような問題文が長い場合、しっかり文章を読 まないといけません。そこにはヒントになる内容や おさえておかなくてはならないことがあります。

このように

- ・戦争を助長したり,
- ・あるいは戦争を抑制したりする傾向が,
- ・三十年戦争, フランス革命戦争, 第一次世界大戦

という3つの時期にどのように現れたのかについて

これが中心の問いです。戦争を助長したり、抑制したりする傾向とはどういうものかを答えていきます。

戦争は三十年戦争、フランス革命戦争、第一次世界大戦の3つです。

気になるのは「このように」の部分です。国語の 問題みたいですね。

「このように」ということは問題文から

- ①主権国家が誕生し民主主義が成長した
- ②反面、各地で戦争が多発した
- ③それは、国内社会の民主化が国民意識の高揚を もたらし、対外戦争を支える国内基盤を強化し たため
- ④他方、国際法を制定したり国際機関を創設して 戦争を防ぐ努力もあった

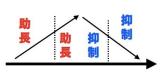
とわかります。

①②③は戦争を助長するというところでヒントになりそうです。④は戦争を抑制するというところで 参考になりそうです。

助長という言葉は幅広い意味で考えられますが、 戦争前に戦争を助長したり、また戦争中により対立 を助長することも視野に入れて考えてほしいところ です。

(画像は構想メモのイメージ)





抑制も同様に、戦争中に戦争を抑えようとする動き、そして戦争後に対立が起きないようにする動きも考えましょう。



<各戦争ごとに内容の確認>※画像は構想メモの例です

〇三十年戦争

[助長]

• 宗教対立

1618~1648 年にかけておこなわれた三十年戦争は、ドイツを主戦場として始まりました。この戦争は最後の宗教戦争と言われたり、また最初の国際戦争などと言われることもあります。

戦争のきっかけは、旧教(カトリック)を強制されたベーメンの反乱でした。神聖ローマ帝国では16世紀の宗教改革以降、1555年のアウグスブルクの和議で宗教対立は一旦落ち着いたかに見えましたが、その和議は神聖ローマ帝国内の宗教問題を根本から解決するには至らず、新教と旧教の対立がずっと残っていました。そうした対立を背景に、17世紀にベーメンにハプスブルク家の旧教の新王が就き、旧教を強制します。ベーメンが反乱を起こし、それが三十年戦争につながっていきました。宗教に関する対立が戦争を助長したということは疑いのないところでしよう。また宗教の対立は報復がすさまじく、多くの犠牲を生み、対立を激しくさせています。

・対ハプスブルクで各国が介入している→国際戦争

三十年戦争は宗教戦争として始まりましたが、神聖ローマ帝国内のことに収まらず、神聖ローマ帝国内の新教徒保護を名目にデンマークやスウェーデンが介入してハプスブルク家と戦います。イギリスやオランダなどの新教国もこれを援助するなどしています。また旧教国フランスが新教側について戦ったことで、ブルボン家対ハプスブルク家の覇権争いになっていきました。こうした王家の対立が戦争を助長し、より激しいものとしたと言えるでしょう。戦後はハプスブルク家が衰退し、フランスのブルボン家が覇権を握り、スウェーデンが「バルト帝国」と言われるほどの勢力を持つことになります。

・傭兵を使用していた

神聖ローマ帝国側に傭兵隊長ヴァレンシュタイン という人物が出てくることでお分かりの通り、当時 は金銭で雇った兵士を使うことが多くありました。 傭兵はしばしば激しい略奪をおこない、また傭兵は 戦いがなくなると失業してしまうことからなかなか 決着がつかず(つけず)、戦争が長引くため民衆の多 くの犠牲が生まれました。

解答例には載せていませんが、神聖ローマ皇帝と ドイツの領邦の対立も考えられます。各領邦は皇帝 の力が強くなることを警戒していたため、カトリッ ク教徒だからといって皆が皇帝の味方をしたわけで はありませんでした。

「抑制〕

- ウェストファリア条約
 - →宗教問題に区切り 主権国家体制確立

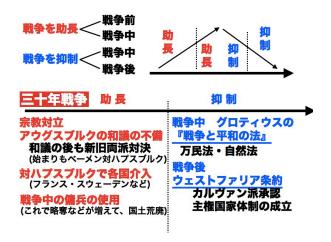
この条約で戦争が終わります。宗教上の問題はすべて解決されるわけではありませんが、これまでの旧教とルター派に加えてカルヴァン派も認められます。個人の信仰の自由はまだありませんが、宗教戦争としては一旦これで決着がつきました。また神聖ローマ帝国内の300あまりの諸侯に主権が認められます。これによって神聖ローマ帝国は有名無実化し、ヨーロッパは主権国家体制が成立したと言えます(この条約は「帝国の死亡証明書」と言われたりします)。ブルボン家やスウェーデンは強くなり、ハプスブルク家は衰退して争いの種は一旦取り除かれることになります。

・戦争中にグロティウスが発表した『戦争と平和の法』

グロティウスは三十年戦争の惨禍を見て、戦争防 止や収束のためには自然法の理念に基づいた国際法

強電戦略

が必要であると主張し、1625年『戦争と平和の法』 を発表しました。この本は出版当初から反響があったと言われています。世界最初の国際法の提唱でした。



〇フランス革命戦争

[助長]

・反革命派の動き→周辺諸国の反発(ピルニッツ宣 言など)→ジロンド派の宣戦布告

1789年にフランス革命が始まります。当然国内に 反対派がいます。例えば絶対王政だった国王は当然 革命に反対ですし、自由主義的な貴族は革命に協力 する人達もいますが、保守系貴族たちの多くは反対 しています。国王が国民議会を武力でつぶそうとし ていたのは知っていますね。また国王の逃亡が失敗 すると (ヴァレンヌ逃亡事件)、革命で亡命した貴族 と結んだ周辺諸国は革命の波及を恐れ、軍事行動を 呼びかけたり、オーストリア(皇帝レオポルド2世 はマリ=アントワネットの兄)が中心となってピル ニッツ宣言を出したりします。フランスの革命政府 にはピルニッツ宣言は深刻な脅迫と受け止められま した。戦争やむなしという空気が流れます。立法議 会が成立しジロンド派内閣が成立すると、フランス 各地の王党派の反乱勃発やオーストリアによる亡命 貴族への支援などの状況を打破するために政府は宣 戦布告し、フランス革命戦争が始まります。しかし フランス革命政府は劣勢に立たされました。

・国王処刑→対仏大同盟など

貴族階級の士官などは革命政府に非協力的であったり、マリ=アントワネットが敵方にフランスの作戦をもらしていたという話もあります。劣勢に立たされる中、立法議会の「祖国は危機にあり」という非常事態宣言が出されると、各地から義勇軍が集まります。ナショナリズムが盛り上がっているのが分かりますね。フランス劣勢の原因は王家であると考えた市民や義勇兵はテュイルリー宮殿を襲撃し(8月10日事件)王権を停止します。またフランスはヴァルミーの戦いに勝利し、フランス国民を沸き立たせます。

国民公会が成立するとルイ 16 世の処刑が決定します。国王ルイ 16 世が処刑されたことは、ヨーロッパ中を震撼させます。イギリスのピット首相の提唱で第1回対仏大同盟が結成され、オーストリア・プロイセン・スペイン・オランダ・サルデーニャなどが加わり、より戦争は激しくなっていきます。戦争の助長は反革命勢力の動き、煽動であると言えるでしょう。

[抑制]

ナショナリズムの盛り上がり→徴兵制で対抗

さきほど述べた義勇軍が集まった動き、あれはナショナリズムの盛り上がりを表す出来事ですが、その延長上に徴兵制があると言っていいでしょう。 徴兵制という語をどこで使用するかというのが難しいのですが、私は抑制で使いました。徴兵制を敷いたから戦争が激しくなる?違いますよね。最初から消耗戦と言っていい戦いをすることはありえないでしょう。戦争が激しくなってフランスがピンチになる、ナショナリズムが盛り上がって戦争を何とかしようとする。ナショナリズムの延長上に徴兵制があると考えた方がいいのだと思います。なおこのあふれ出るエネルギーをまとめて戦術を与えて武器を持たせて戦ったのがナポレオンです。

強裁戦略

・ウィーン体制→正統主義 勢力均衡

フランス革命戦争はその後ナポレオン戦争へと発展します。ナポレオン失脚後はウィーン会議が開かれました。そこでフランス外務大臣のタレーランによって、フランス革命前にヨーロッパを戻す「正統主義」が提唱され、その考えによって体制がつくられました。そして五大国による勢力均衡によって秩序を維持しようとします。四国同盟(後に五国同盟)で民族運動を弾圧しようとしたのは知っていますよね。

〇第一次世界大戦

[助長]

・帝国主義諸国間の争い

第一次世界大戦が帝国主義諸国間の戦争であることは周知のことと思います。特に 1890 年にドイツでヴィルヘルム 2 世が親政を開始していくと、これまでのビスマルク外交からまったく違った方向にヨーロッパは進みます。

ビスマルクは、ドイツが統一間もないため戦争を極力回避したかった。だから、ドイツに攻めてくる可能性が一番高いフランスを孤立化させ、他の列強と関係を構築していきました。三国同盟や独露再保障条約がそれにあたりますね。ところがヴィルヘルム2世が親政を始めると再保障条約の更新をせず、そのためロシアとフランスが露仏同盟を結成します。さらにドイツはイギリスに負けじと大艦隊の建設を進めていきます(建艦競争)。植民地獲得競争に遅れたドイツは3B政策でアジアへの進出を画策し、モロッコ事件では英仏と明確に対立することになります。こうしたドイツの動きに対して英仏協商や英露協商が結ばれていきます。これらの同盟や協商は秘密外交として行われました。

・バルカン半島などの民族問題

様々なところでみられる民族問題も、大戦を助長させるものとして考えてよいでしょう。バルカン半島におけるパン=スラヴ主義(ロシアが南下政策に利用するためにこれを支援)とパン=ゲルマン主義(19世紀のドイツ統一の時に掲げられた理念で、ドイツのヴィルヘルム2世がバルカン半島への進出を目指して掲げた)によりバルカン半島は「ヨーロッパの火薬庫」と言われていました。大戦の引き金となったサライェヴォ事件も背景にはパン=スラブ主義とパン=ゲルマン主義の対立がありました。

また解答例には入れておりませんが、大戦中のイギリスのアラブ民族やユダヤ人への外交 (フサイン=マクマホン協定やサイクス=ピコ協定)、イギリスがインドに自治を条件に戦争協力を求めたことなどもより戦争を激しくさせているものと考えてもよいでしょう。

・民主主義の進展/列強の軍需景気など

大戦と民主主義が何の繋がりがあるのかと思われる人もいるかと思いますが、戦争に踏み切るときに決断をする政治家は、選挙で選ばれている人達です。イギリスやフランスなどは普通選挙が行われています(女性はまだですが)。ナショナリズムが盛り上がり戦争に積極的な意思を持つ政治家が当選したりします。二次大戦のときもそうですが、マスコミがこうしたナショナリズムをあおることが多く、民衆の後押しがあって世界は戦争に向かっていきます。

解答例には書いておりませんが、機関銃などの武器の発達もより戦争を激しくさせているものと言えるでしょう。

[抑制]

・総力戦で対抗

総力戦は抑制の側で使おうと思います。フランス 革命のところの徴兵制と同じですね。はじめから総 力戦をおこなうわけではありません。戦争が長期化

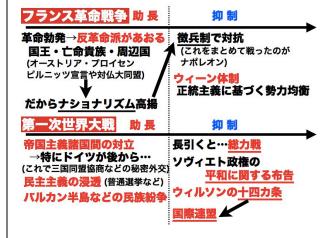
強裁戦略

するために総力戦で対抗することになります。

19世紀までの戦争と大きく違うのは、やはり工業力や物量の違いが戦争の有利・不利を分けてしまうところでしょうか。戦争の規模も大きくなり、国力を戦争に向けて動員する総力戦体制が作られます。女性や青少年を軍需工業へ動員したり、食糧は配給制になったりします。これで戦争を乗り切っていこうとします。イギリスやフランスは植民地化から資金や物資、労働力や兵員を動員できたので、統制や緩やかでした。それでも食料事情は決していいとは言えません。貿易を絶たれたドイツ、オーストリア、ロシアは厳しい経済統制のため、食料事情はかなり悪く、反戦ストライキが多発します。最後は革命へと向かっていきます。

・ソヴィエト政権の「平和に関する布告」/ アメリカ大統領ウィルソンの「十四ヵ条」 →国際連盟発足 など

革命後のソヴィエト政権が出した「平和に関する 布告」、アメリカ大統領ウィルソンが出した「十四ヵ 条」が抑制の出来事としてあげられます。いずれも 大戦中に出されています。直接終戦に効果があった わけではありませんが、戦後の秩序の形成に影響が でます。大戦後はウィルソンの「十四ヵ条」がパリ 講和会議の基本理念となりヴェルサイユ体制形成に 繋がっていきます。国際協調に世の中は向かってい きます。少し先まで考えると、ロカルノ条約や不戦 条約も抑制に入れてよいと思います。



では解答例です。

【解答例】

三十年戦争:アウグスブルクの和議の不徹底がドイ ツの新旧両派の宗教対立を助長、戦争となった。宗 教対立から始まったが周辺国が介入、傭兵も多く使 用したため、戦争は激化した。戦後ウェストファリ ア条約で主権国家体制確立、カルヴァン派公認、戦 争中にグロティウスが『戦争と平和の法』で万民法・ 自然法を説き、戦争抑制を目指した。フランス革命 戦争:革命が起こると、国王や亡命貴族、周辺国に よる反革命派の動きが戦争を助長した。これに対し てナショナリズムが高まり各地から義勇兵が集まり、 後に徴兵制がしかれて革命維持のために戦った。ナ ポレオンは徴兵制の軍を率い周辺国家と戦争をした。 戦後はウィーン体制が成立、正統主義に基づく大国 による勢力均衡を目指し、神聖同盟や四国同盟がこ れを維持した。第一次世界大戦:帝国主義諸国間の 対立、特に独の拡大などから三国同盟・三国協商な どの秘密外交を生み、またバルカン半島の民族対立 や西洋諸国の民主主義浸透が大戦を助長した。戦争 が長引くと各国は総力戦で終結を目指し、大戦末期 に反戦運動が高まり、ソヴィエト政権が平和に関す る布告、米大統領ウィルソンが十四ヵ条を出し、戦 後は十四ヵ条に基づき国際連盟が成立、戦争抑制を 目指した。(510字)



いかがだったでしょうか。今回の問題は意外と盲 点になるところが多かったのでないかと思います。 私が挙げたこと以外にもまだ書けることはあるかと 思います。

ただ一つ一つは決して難しいことではありません ので、丁寧に考えてみてください。

世界史 北林